

韓国

# 慶尚北道慶山市

ソウル事務所所長補佐 春名 雅樹 (京都府派遣)

今回で紹介する慶山市は慶尚北道南部中央地域に位置し、韓国第3の都市である大邱広域市に隣接しています。大都市近郊周辺地域という立地条件を活かしたまちづくりを進めていて、市内の13大学で約12万人が学ぶ韓国最大の学園都市であり、約1,600の企業が操業している産業都市で、ナツメ・苗木の生産量が全国1位のシェアを占める農業都市でもあります。



## 慶山市の概要

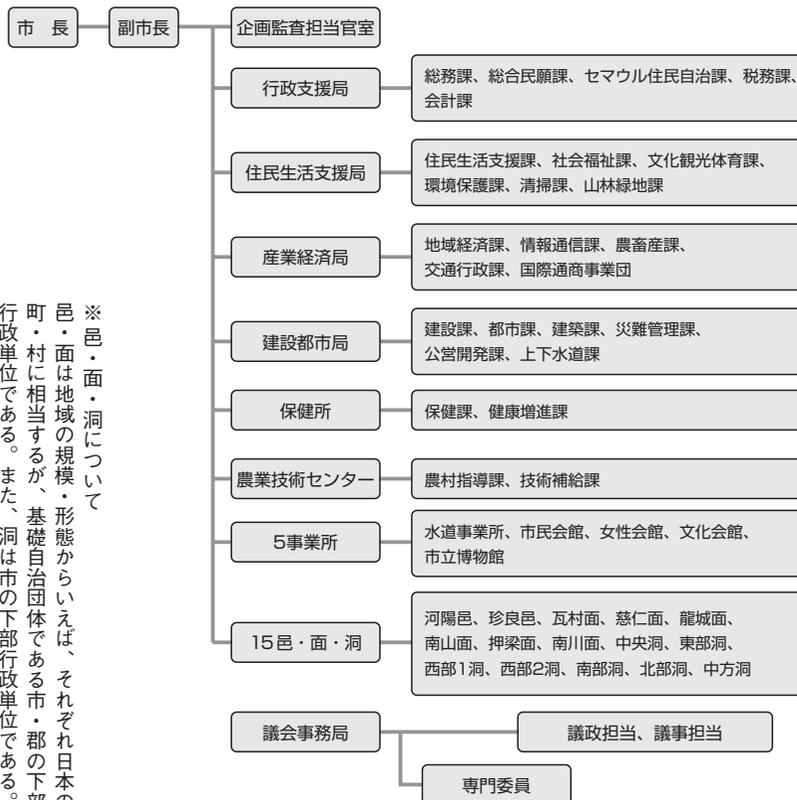
慶山市の年間の平均気温は一三〜一四度ですが、大邱広域市を中心とした大邱盆地の中に位置していますので、夏はかなり高温になる一方、冬の冷え込みも厳しくなります。年間の降水量は少ないですが韓国内では比較的温暖な地域で、自然豊かな農村部と急速に発展している都市部が調和しています。

古くは三韓時代の押督国の根拠地として、また新羅時代には三国統一の前哨基地にもなった歴史のあるまちで、市内には一〇の国家指定文化財をはじめとする多くの文化財があります。その中でも八公山の山中の岩壁に作られた「冠峰石造如来坐像(別名・ガッパウィ)」は心を込めて祈れば一つの願いは必ず

叶えられるという霊験あらたかな石仏として知られていて、周辺の素晴らしい景観と相まって多くの信者や観光客が訪れる場所になっています。

また、釜山や浦項など韓国の南東部から大邱に入るための交通の要所になっていて、京釜線・大邱線といった鉄道や京釜高速や大邱〜浦項、大邱〜釜山高速などの道路もよく整備されています。そして、隣接する大邱広域市にある大邱国際空港、KTX

## 市の機構



※ 邑・面・洞について  
邑・面は地域の規模・形態からいえば、それぞれ日本の町・村に相当するが、基礎自治団体である市・郡の下部行政単位である。また、洞は市の下部行政単位である。

(韓国高速鉄道)の停車する東大邱駅から二〇〇七年には地下鉄が大邱市内から慶山市まで延伸されることになっていきます。

市の面積は四一・八二km<sup>2</sup>、人口は約二四万人、財政規模は約三五〇一億ウォン(一般会計:二八〇八億ウォン、特別会計:六九三億ウォン)、行政機構は四局一担当官室二直属機関五事業所一五邑面洞で構成されています。二〇〇〇年当時は、人口約二一万人、財政規模は約二三五七億ウォンであったことを考えると人口は約一四〇%増、財政規模は約五〇%増となっています。

## 学園研究都市

慶山市といえば、まず大学が多いことで知られています。先ほども紹介したとおり市の人口は約二四万人である一方、市にある一三の大学に在籍する大学生は約一二万人もいます。隣接する地域から通学している大学生も多いため、市が施策対象とする人口はかなり多くなっています。また、よりよい環境を求めて大邱広域市から移転してきた大学も多く、慶山市の教育環境の良さがうかがえます。教育熱心なことで知られる韓国の中で、慶山市が「韓国最大の学園都市」と言われることはとても誇らしいことではないかと思えます。

そして、大学附属の研究所一〇七カ所をはじめとして市内には研究機関が一九〇

余りもあり、産学連携を図りながら研究開発が行われています。そこで、市では「学園研究都市」として大学をはじめとした教育・研究に係る環境の整備に力を入れています。例えば、二〇〇七年地下鉄が延伸されれば韓国最大規模の敷地面積を誇る嶺南大学と大邱市内が直結されることとなります。この嶺南大学のキャンパス内には大規模な博物館もあつて、観光の面からも期待される場所でもあります。

※慶山市所在の一三大学

慶一大学、大邱大学、大邱カトリック大学、大邱韓医科大学、大神大学、アジア大学、嶺南大学、嶺南神学大学、大邱外国語大学、慶東情報大学、慶北外国語テクノ大学、大慶大学、大邱未来大学

## 先端ベンチャー都市

慶山市の産業は中小企業を中心とした製造業が主で、約一六〇〇の事業所に二万五〇〇〇人ほどが従事しています。その製造業の中心となるのが二カ所の産業団地で、いずれも市内中心部から東側に位置しています。

「珍良産業団地」は京釜高速道路の慶山ICに近接し、約一五八〇km<sup>2</sup>の敷地に一九六の事業所があり、少し南に離れたところにある「慈仁産業団地」は約四九〇km<sup>2</sup>の敷地に一〇七の事業所があります。珍良産業団地は一九九三年から、慈仁産業団地は一九九七年から供用開始されており、現在は

二つの産業団地ともほぼ全区画が分譲されています。これらの産業団地では繊維製品(約四〇%)、電気機器および部品(約二〇%)を中心に主に輸出向けの製品を生産しています。二〇〇五年の輸出額は五億五八〇〇万ドルで、二〇〇〇年当時の輸出額が三億八二〇〇万ドルであったことを考えると一・五倍の規模になっています。

そして、産業研究施設としては「財慶北テクノパーク」(財韓国繊維機械研究所)といった施設があります。これらの研究施設は嶺南大学のキャンパス内にあり、研究開発のほか中小企業支援や情報交流といった産学連携の取組みが進められています。

こうした状況の中、市では新しい産業団地の開発を計画しています。現在ある二つの産業団地が完成して以来、急速に成長してきた先端産業・知識産業に属するような企業に進出してもらうことを想定しているとのこと。もちろん、外国からの投資も期待しているとのこと、外国企業向けのインセンティブなども考えていきたいとのことでした。

このような取組みを通じて、高い付加価値を持つ製品を生み出す中小企業を育成していくための産業基盤の拡充を図っていることが分かります。

## 近郊農業都市

慶山市では、日照量の多いこの地域の特

性を活かした農業も盛んに行われていま  
す。全国的に有名な農産物としては、全国  
の生産量の約三〇%を占めてトップシエ  
アであるナツメのほか、桃、ぶどう、スモモ、  
ゴマの葉などがあります。これらの農産物  
は「オンゴルチャン」(「実がしつかり詰まっ  
ている」といった意味)というブランドで全国  
に配送されています。

このほか、大都市近郊周辺地域という立  
地を活かした特産物としては、「慶山苗木」  
と呼ばれる果樹、花きなどの苗木を生産し  
ていて、こちらはなんと全国生産量の約  
八〇%というシェアを占めています。市の  
農・畜産業総生産額の約二五〇〇億ウォン  
のうち、こうした果物と苗木が占める割合  
は一〇〇〇億ウォン近くに達していて全体  
の約四〇%を占めています。

しかし、近年の都市化に伴う影響も少  
ずつ出てきています。耕地面積は二〇〇〇  
年当時の約八九五〇haから三%減少して  
約八七〇〇haに、また、農家の戸数も約九  
三〇〇世帯から約八%減少して約八六〇  
〇世帯と毎年少しずつ減少してきていま  
す。

もともと慶山市は農業のまちで、そのこ  
とが分かるエピソードもあります。現在、  
市が海外の自治体と姉妹提携しているの  
は、京都府城陽市と中国・山東省膠南市の  
二つの都市です。この姉妹提携を結ぶに当  
たっては、当時は農業が主な産業だったた  
めに大都市周辺地域(城陽市は京都市、膠

南市は青島市)で近郊農業が発達していた  
都市であるということがポイントだったと  
いうことが挙げられていました(もちろん、  
気候や歴史・文化のほか、市が商工業にも  
力を入れてきている時期でもあったので衛  
星都市としての役割も似かよっていたから  
という点もあります)。

## おわりに

慶山市を紹介するに当たって、大きな特  
徴となつている三つのポイントに絞って取  
り上げてみました。この三つを取り上げる  
ことによつて、市がバランスを保ちながら  
急速に発展してきている状況が分かってい  
ただけなのではないかと思つたからです。

こうして発展してきている市にとつて  
は、今後も農地などの緑地を残しながら宅  
地開発などの都市化を進めていくことは  
非常に重要なことです。例えば、人口の増  
加に合わせて進められている宅地開発も  
こうした都市計画に沿って行われていま  
す。現在造成中の四カ所と今後計画され  
ている二カ所の宅地開発が完了すると、さ  
らに六万人以上の人口が増加すると見込  
まれていて、上・下水道や道路網の整備など  
都市基盤の拡充も一層進めていくことが必  
要になります。

また、国際交流の面では、現在姉妹提携  
を結んでいる京都府城陽市とは行政交流  
のほか、スポーツを通じた交流などで民間

団体同士の交流も行われています。市とし  
ては、今後新しい産業団地を作る計画もあ  
ることから、人的な往来という交流だけで  
なく経済的な交流もできるような自治体  
との提携も考えるなど、国際交流を今後も  
つと活発化させていきたいとの意向も持っ  
ています。

これからも市のシンボルマークが意味さ  
るような「発展と調和」のイメージを実現さ  
せていくための各種の取組みが積極的に  
行われていくものと思えます。

### 市のシンボルマーク



慶山市(Gyeongongsan)の英文イニシャル  
であるGとSを調和して表現したものの。  
緑色(左側の半円)は環境と人間、未来の  
ビジョンと希望の意味を、青色(右側の  
半円)は歴史と先端産業、教育が果た  
した基盤を象徴する。つまり、緑色の基盤  
の上で限りなく発展していく青色の姿を  
和合し調和させて形象化したもの。